

デ活

データ活用協議会
Data use and application council for resilience
シンポジウム2019

for R 首都圏
レジリエンス
プロジェクト
Tokyo Metropolitan Resilience Project

本プロジェクトは、地域のレジリエンス力向上のための研究活動を実施するとともに、産官学民の有機的連携を通じて、組織・団体が有する地震センサー等のデータの共有を行い、ビッグデータを活用した社会の防災力向上を目指しています。また、防災分野における企業・組織の課題解決、事業継続能力の向上に資することを目的とし、「データ活用協議会」を立ち上げ、運営しています。

令和元年度 第2回デ活シンポジウム **事前申込制**

企業も強くなる 首都圏も強くなる

Companies become stronger,
metropolitan areas also become stronger
-Increase the safety of residents, employees and staff-

～住民や従業員・職員の安全力を高める～

産官学民からなるデータ活用協議会(デ活)では、首都圏のレジリエンス向上を目指し、会員ニーズ別に分科会が設定されています。今回のシンポジウムは、2つの分科会を軸に、住民や従業員・職員の安全力を高める枠組みと事例について議論します。

第1部: 基調講演-先進的な枠組みとその事例-住民や従業員・職員の安全力を高める

第2部: 分科会の取り組み紹介「建物付帯設備分科会」「生活再建分科会」

第3部: パネルディスカッション

2019.9.24 **火** 14:00-17:00
(13:30開場)
都道府県会館 1F 101大会議室

〒102-0093 東京都千代田区平河町2-6-3
<https://www.tkai.jp/>

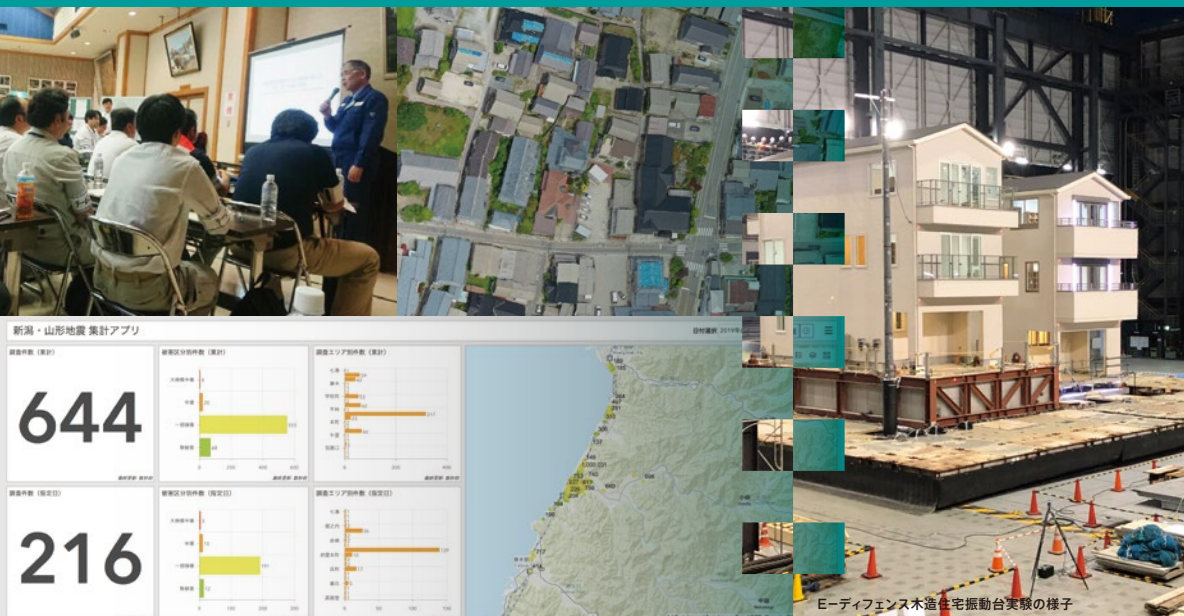
※なお、去年までの会場とは変更になっております。最寄駅:東京メトロ有楽町線・半蔵門線・南北線「永田町駅」(5番出口より地下連絡通路を経て徒歩約1分)

申込方法

このシンポジウムへ参加希望の方は、下記URLの申込フォームより必要事項を記入の上、参加登録をお願い致します。なお、定員に達した時点で締め切らせていただきます。



<https://nied-forrdudc-regist.smartcore.jp>



主催: 国立研究開発法人防災科学技術研究所 首都圏レジリエンス研究センター
共催: 国立研究開発法人防災科学技術研究所 気象災害軽減イノベーションセンター

文部科学省

生きる、を支える科学技術
防災科研
NIED

プログラム

■ 13:30 開場

■ 14:00 あいさつ 文部科学省
平田 直 (防災科研 首都圏レジリエンスプロジェクト 総括)

第1部 基調講演 - 先進的な枠組みとその事例 - 住民や従業員・職員の安全力を高める

■ 14:10 「災害対応力向上に寄与する戦略的会議体の試み」
永田 茂 (日本防災産業会議)

■ 14:40 「東京都被災者生活再建支援システム利用協議会の活動」
榎園 (えのきぞの) 弘 (東京都 総務局 防災対策担当部長)

第2部 分科会の取り組み紹介 データ利活用協議会では、首都圏レジリエンス向上のために、会員ニーズ別の課題に基づいた分科会を設定し、活動を実施しています。

■ 15:10 建物付帯設備分科会
「感震ブレイカーのE-ディフェンス実験(仮)」
楠 浩一 (東京大学地震研究所 教授)

「感震ブレイカーにおける二次災害防止への可能性(仮)」
鈴木 宏 (日東工業株式会社 開発本部 新規開発部 部長)

■ 15:35 生活再建分科会
「被災者の迅速な生活再建支援業務実現に向けたマネジメントツールの開発と実装」
井ノ口 宗成 (富山大学 都市デザイン学部 准教授)

「新潟・山形地震における村上市の対応と分科会支援活動の実際」
渡辺 真吾 (村上市 税務課資産税係 主査)

■ 16:00 休憩

第3部 パネルディスカッション

■ 16:10 「企業も強くなる 首都圏も強くなる ～住民や従業員・職員の安全力を高める～」
モデレーター：下村 健一 (白鷗大学 特任教授 / 元TBSキャスター)
パネリスト：永田 茂 (日本防災産業会議) / 榎園 弘 (東京都 総務局 防災対策担当部長)
第2部の登壇者

■ 16:50 あいさつ



首都圏を中心としたレジリエンス総合力向上プロジェクト/データ利活用協議会(デ活)

首都圏レジリエンス研究センターは、以下に掲げる3つのサブプロジェクトの推進、データ利活用協議会(デ活)の運営を行ない、これらの有機的連携を通じて、官民一体の総合的な事業継続や災害対応、個人の防災行動等に資するデータの収集・整備をめざします。

サブプロ [a] sub a

首都圏を中心としたレジリエンス総合力向上に資するデータ利活用に向けた連携体制の構築

サブプロ[a]では、(1)被害の拡大を阻止し、都市機能の早期復旧・復興を実現する技術的課題抽出、データ利活用策の検討をするとともに、(2)データ利活用に向けた民間企業や関係機関等との連携を模索する(社会科学を中心とした防災研究)。
16の研究機関・大学(22名)と6つの企業・団体(6名)が研究開発を実施。

統括：田村 圭子 新潟大学 危機管理本部 危機管理室 教授
上石 勲 防災科研 首都圏レジリエンス研究センター 副センター長

サブプロ [b] sub b

官民連携による超高密度地震動観測データの収集・整備

サブプロ[b]では、(1)官民連携超高密度観測データの収集・整備と、(2)マルチデータインテグレーションシステムの検討を行う(理学を中心とした防災研究)。3つの研究機関・大学(27名)と1つの企業・団体(1名)が研究開発を実施。

統括：酒井 慎一 東京大学 地震研究所 観測開発基盤センター 准教授
青井 真 防災科研 地震津波火山ネットワークセンター長・総括主任研究員

サブプロ [c] sub c

非構造部材を含む構造物の崩壊余裕度に関するデータ収集・整備

サブプロ[c]では、(1)非構造部材を含む崩壊余裕度に関するデータ収集・整備、(2)地盤-建物系のセンシングデータの収集・整備を行う(工学を中心とした防災研究)。13の研究機関・大学(27名)と2つの企業・団体(3名)が研究開発を実施。

統括：西谷 章 早稲田大学 理工学術院 建築学専攻/建築学科 教授
梶原 浩一 防災科研 地震減災実験研究部門(兵庫耐震工学研究センター) 部門長・総括主任研究員

お問い合わせ

防災科研 首都圏レジリエンス研究センター 研究戦略室

古屋・三條・小野 Tel: 029-863-7260 E-mail: info_for_r@bosai.go.jp

データ利活用協議会ホームページ

<https://forr.cc.niigata-u.ac.jp/duc/>